

授業 科目名	【G】	研究会Ⅰ・Ⅱ N	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2+2	
	【H】	研究会Ⅰ・Ⅱ N			【H】3		【H】2+2	
	【I】	研究会Ⅰ・Ⅱ N	必修		【I】3		【I】2+2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	刑法の重要テーマを横断的に検討する。				担当者	今井 康介		
授業概要	【概要】	前期は、各自が設定したテーマについて、担当者に報告してもらい、その後、討論を行う。 後期は、より深く各自の問題意識に基づき調査・研究してきた内容を報告、討論する。ただし受講生との相談により変更する可能性がある。 前期に1回、後期に1回の課外活動（例えば、裁判傍聴、警察見学、刑務所見学、少年院見学等）を実施する予定である。						
	【到達目標】	本演習では、（下記授業内容の通り）報告担当者に報告してもらい参加者全員で議論し、また、必要に応じて担当者からの講義を織り交ぜる、といったアクティブラーニングの形態を採る。この授業形態を通じ、受講者の皆さんに、刑法・刑事法の幅広い知識をつけてもらい、加えて、報告する能力、議論する能力を身に付け、それをより高めてもらうことを到達目標とする。						
履修条件	担当者による選抜に合格し、履修登録を許可された者であること。刑法概論を単位取得済で、刑法（総論）Ⅰ・Ⅱ、刑法（各論）Ⅰ・Ⅱについては、単位取得済または並行履修していることが望ましい。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP（ディプロマ・ポリシー）①	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）②	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）③	◎（よく当てはまる）						
	DP（ディプロマ・ポリシー）④	－（当てはまらない）						
他科目との関連性	刑法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、特殊講義（特別刑法Ⅱ）							
教科書	特に指定しません。							
参考書	毎回のテーマにより異なります。各回ごとに指示します。							
評価方法	報告内容（70%）、授業（議論）への参加度・受講態度（30%）を総合して評価する。							
フィードバック方法	授業内で解説を行う。							
評価基準	授業内容をよく吟味・理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容の吟味・理解に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、全回欠席などのように、評価不能の場合には「F」とします							

授 業 科目名	【 G 】	研究会 I・II N	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2+2
	【 H 】	研究会 I・II N	必 修		【 H 】 3		【 H 】 2+2
	【 I 】	研究会 I・II N			【 I 】 3		【 I 】 2+2
授業内容	<p>【前期】 本演習（前期）の進め方および担当決め（第1回）、各担当者による報告（第2～14回）、刑事裁判傍聴（第15回、未定）</p> <p>【後期】 本演習（後期）の進め方および担当決め（第1回）、各担当者による報告（第2～14回）、刑務所見学（第15回、未定）</p> <p>報告について、具体的にいかなるトピックスを扱うかについては、初回授業において受講者と相談のうえ最終決定する。基本的には受講者による文献報告・研究報告を基に議論をするかたちで授業を進めるが、必要に応じて、担当者からの講義を行うことがある。受講者の報告に関しては、報告担当者を割り振り、担当者に様々な情報を調べたうえで報告をしてもらい（30分程度）、それを受け、受講者全員で議論する。 <アクティブラーニング></p> <p>上記の内容については、報告者だけでなく、履修者にもチームあるいは各自で、法的な主張に関する討論に参加してもらいます。履修者は、毎回、発表者の報告を聞いて、意見や感想を述べたり、報告の評価をしたり、改善提案を行ったりを行いますので、履修者全員が主体的に参加する必要があります。</p> <p>また課外活動に際しては、見学後レポート提出を求めることがあります。</p>						
予習内容	<p>各回に報告テーマとなる文献をよく読んでおくこと。 各回の報告テーマに関して事前にある程度調べてくること。 なお、各回の予習時間は90分を目安としてください。</p>						
復習内容	<p>当初持っていた疑問点の解決、知識としての定着、それを踏まえて、理論的にどのように発展していく可能性があるかを創造的に考えること、を目指すこと。なお、各回の復習時間は90分を目安としてください。</p>						
その他	<p>特別の事情がない限り、全回出席・受講を原則とする。欠席・未受講が5回以上となった場合、単位認定を行わない。</p>						